

血管内治療センター

1. スタッフ（平成26年4月1日現在）

血管内治療センター長（教授）	渡辺 英寿 （脳神経外科）
脳血管内治療部 部長（准教授）	難波 克成
医員（臨床助教）	檜垣 鮎帆 （脳神経外科）
大動脈治療部（准教授）	齊藤 力

2. 脳血管内治療部の特徴

血管内治療部は平成17年4月に新設され、脳神経分野、全身分野の2分野が稼働を開始した。平成18年3月に現在の新しい施設に移転した。

平成22年11月に心臓血管分野が新設され、3分野による診療が始まった。

平成24年11月に組織変更が行われ、血管内治療部が血管内治療センターに改編され、新たに「脳血管内治療部」、「放射線IVR部」、「大動脈治療部」の3つが創設された。

脳血管内治療部は、平成18年3月に頭部専用血管撮影装置（Philips社製Alura）を導入し、診療にあたってきた。平成24年5月には血管撮影装置のフラットパネルディテクタと画像処理ソフトを一新し、臨床性能と画像鮮明度を大幅に向上させた。脳、脊髄、頭頸部の血管病変全般を対象とし、脳動脈瘤、脳動静脈奇形、脳動脈閉塞性病変、脊髄血管奇形、頭頸部腫瘍、頭頸部血管奇形などの診断および治療を行っている。観血的手術を行うことなく、非侵襲的に治療を行う画期的な先端医療を担っている。

平成23年12月には、難波克成准教授が日本脳神経血管内治療学会の指導医に認定された。平成25年4月1日より自治医科大学附属病院が日本脳神経血管内治療学会認定研修施設に認定され、平成26年度も認定が更新された。引き続き、栃木県におけるこの分野の発展に貢献する。

・認定施設

日本IVR学会 専門医修練機関
関連11学会構成ステントグラフト実施規準管理委員会 認定ステントグラフト実施施設（胸部）
関連10学会構成ステントグラフト実施規準管理委員会 認定腹部ステントグラフト実施施設
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療実施施設
日本脈管学会認定研修指定施設

・専門医・指導医

日本脳神経外科学会専門医	難波 克成
日本脳神経血管内治療学会専門医、指導医	難波 克成
日本胸部外科学会指導医	齊藤 力
心臓血管外科専門医	齊藤 力
日本外科学会専門医、指導医	齊藤 力
日本脈管学会認定脈管専門医	齊藤 力
日本血管外科学会認定血管内治療医	齊藤 力
胸部ステントグラフト実施医・指導医（TALENT Thoracic Stentgraft, Gore TAG Thoracic Endoprosthesis, Valiant Captiva, Relay Plus）	齊藤 力
腹部ステントグラフト実施医・指導医（Zenith AAA Endovascular Graft, Gore Excluder Endoprosthesis, Powerlink Stentgraft System, TALENT Abdominal Stent Graft, Endurant Stentgraft System）	齊藤 力
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術実施医	齊藤 力

3. 診療業績・クリニカルインディケーター

脳血管内治療部	
脳血管撮影件数	225件
手術症例病名別件数	
脳動脈瘤	55例
動静脈瘻・脳動静脈奇形	14例
血管形成術	33例
脳腫瘍	9例
脊髄血管奇形塞栓	2例
頭頸部顔面血管塞栓	9例
総数	122例
大動脈治療部	
EVAR （追加EVAR含む）	46件
TEVAR （追加TEVAR含む）	13件
ハイブリット治療 （血管外科手術＋血管内治療同時）	5件
EVAR、TEVAR追加処置 （追加EVAR、TEVAR除く）	9件
腎動脈瘤coiling	1件

4. 事業計画、目標

研究活動

平成22年度11月、「ブタを用いた脳血管内治療トレーニングプログラムの開発」において科学研究費補助金を受託し、先端医療技術開発センターにて動物実験を行っている。ブタ総頸動脈を用いた脳動脈瘤治療モデルの開発に成功し、成果を学術誌に発表した。

平成25年と11月、「ブタを用いた脳動脈瘤コイル塞栓術トレーニングモデルの開発」において科学研究費補助金を受託し、以前からの研究を進展させている。本年度はこの成果に基づき、脳血管内手術初心者を対象に脳血管内手術の教育プログラムを展開する予定である。

また、3Dプリンターで正確に再現した脳動脈瘤を脳血管内治療に応用する研究を開始した。脳血管内手術前に実際の治療を行うのと同じ構造を持つモデルでシミュレーションを行い、より正確で安全な治療を行うことを目標に研究を進める。

臨床活動

脳血管内治療部では2013年度は2012年度と比較して、検査数は減少し、治療数は増加した。血管内治療は、他医家紹介や患者さんの希望による受診が増加し、血管内治療が広く一般医家、市民に浸透してきた印象を受ける。一方、侵襲的なカテーテル検査に依らない、MRAや3DCTAなどの検査法の普及で検査数は減少した。専属スタッフ2名という制約の中で入院199名、血管内治療122件、血管撮影225件とアクティブに活動を行っている。

2014年度も2名の少スタッフではあるが、検査、治療数の増加を目標とする。2011年に認可された新たな脳梗塞急性期治療用デバイスも認知度が上昇し、脳血管血栓吸引症例も増えつつある。当院でもこの新デバイスの使用が可能であり、今まで当部門で治療対象としていなかった超急性期脳梗塞治療へ能動的参加を計画している。また、頭頸部領域血管病変は各科が協力しての多面的治療が必要であり、積極的な連携を図りたい。

血管内治療センターの発足に伴い、各部門が有機的な連携を図れるよう新棟への集束と血管撮影装置を備えた手術室(ハイブリッド手術室)への移行を計画中である。